

指導者の国際化  
—Respect される日本人指導者になるには—

早稲田大学 武藤ゼミ B

○黒田 結木      岡本 隆文      永見 健太      山田 祐聖

## 1. 緒言

サッカーにおいて日本人指導者の活躍はあまり見られない。現在、国内から欧州トップリーグへの派遣例はほとんどないが、アジア諸国においては派遣例がいくつかある。元日本代表監督の岡田武史氏は中国スーパーリーグの杭州绿城(2012~2013)、Jリーグでの監督経験をもつ三浦俊也氏はベトナム代表(2014~現在)でそれぞれ監督をしている。

世界における指導者に目を向けると、自国の競技力と指導力は比例している。例えば、世界屈指の強豪国であるブラジルの指導者は、世界各国で活躍している。一方、日本サッカーの競技力は世界基準においてはトップレベルではないが、アジアにおいてはトップレベルである。このような競技力の高さを生かし、アジア諸国における日本人指導者の普及する必要がある。日本サッカーにおけるアジア市場拡大のためには、競技力と共に指導力の向上が不可欠なのである。

## 2. 研究目的

本研究は、アジアにおける日本サッカーの競技力を生かし、アジア諸国に日本人指導者を派遣し、その国のサッカー人気や競技力向上に貢献する。また、日本人指導者や日本サッカーがリスペクトされることで、日本に対するイメージの向上やJリーグの人気につながる。以上を研究目的とする。

## 3. 現状

### 3.1 日本における現状

日本サッカーはアジアにおいてトップレベルである。現在(2014年9月)FIFA ランキングは48位、アジアの中ではイラン(44位)に次ぐ2位である。またアジア大会においては、過去4大会中3大会で優勝をしている。このことから日本サッカーにおける競技力の高さが窺える。

一方、指導者のことに関して言えば、日本人指導者はあまり活躍していない。たしかに、岡田氏や三浦氏のようにアジアで活躍している指導者も存在する。この2人以外にも日本サッカー協会が多くの指導者を派遣している。しかし、いずれも短期的なものであり、日本人指導者の認知度や人気が上がったという実例が少ない。

今井 敏明	チャイニーズ・タイペイ	代表監督 (2005年12月01日～2007年12月31日)
塩澤 敏彦	ネパール	代表監督 (2005年11月02日～2006年01月31日)
築館 範男	グアム	代表監督/技術委員会委員長 (2005年02月23日～2011年01月31日)
神戸 清雄	グアム	代表監督 (2003年02月01日～2005年01月31日)
神戸 清雄	フィリピン	代表監督 (2002年03月01日～2003年02月28日)
今井 雅隆	マカオ	代表監督 (2003年02月01日～2005年01月31日)
今井 雅隆	フィリピン	代表監督 (2001年01月01日～2001年12月31日)
今井 雅隆	マカオ	代表アシスタントコーチ (2000年03月01日～2000年10月31日)
上田 栄治	マカオ	代表監督 (1999年12月01日～2002年01月31日)

図1 JFA 公認指導者のアジア諸国への派遣実績(一部抜粋)

### 3.2 アジア諸国の現状

アジア諸国でのサッカー人気は非常に高い。下記の図2は、アジア14都市の人気スポーツに関するアンケート調査の結果である。サッカーはアジア14都市中10都市で好きなスポーツ第1位である。また、各都市におけるトップ5を見てみると14都市中13都市でランクインしている。参考までだが、東京における結果も第1位はサッカーである。しかし、人気がある一方、競技力向上という点においては成長が見られない。図3にあるようにFIFAランキングも低い。また、競技力が高くないため、国内リーグの盛り上がりに欠けている。AFCチャンピオンズリーグにおいても、クラブライセンス制度の導入により出場クラブが制限されているため、サッカー振興国にとって参加しにくい競技会になっている。つまり、サッカー人気があるにも関わらず、競技力を伸ばせていない状況である。

好きなスポーツ <トップ5> Q:どのようなスポーツを観たりするのが好きですか。(複数回答) (%)

	1.	2.	3.	4.	5.
香港	サッカー 47.0	水泳 38.3	バスケットボール 33.6	バドミントン 26.8	テニス 25.1
台北	野球 50.2	バスケットボール 49.4	フィギュアスケート 25.6	テニス 23.6	水泳 23.4
ソウル	サッカー 65.4	野球 49.8	フィギュアスケート 28.7	水泳 21.9	バスケットボール 21.7
シンガポール	サッカー 36.9	水泳 12.4	バドミントン 10.4	バスケットボール 8.1	テニス 7.0
クアラルンプール	サッカー 43.2	バドミントン 33.7	水泳 4.8	バスケットボール 3.2	モータースポーツ 3.0
バンコク	サッカー 56.1	ボクシング 24.7	テニス 16.1	モータースポーツ 14.8	水泳 13.7
メロマニラ	バスケットボール 74.4	ボクシング 62.0	バレーボール 22.9	サッカー 17.9	水泳 17.2
ジャカルタ	サッカー 55.4	バドミントン 25.2	モータースポーツ 9.3	ボクシング 9.0	バレーボール 5.2
ホーチミンシティ	サッカー 46.1	水泳 10.1	バドミントン 9.7	テニス 6.9	ボクシング 5.1
デリー	クリケット 73.9	サッカー 6.1	バドミントン 5.7	テニス 3.7	フィールドホッケー 2.2
ムンバイ	クリケット 89.7	サッカー 20.6	バドミントン 10.8	テニス 9.8	ボクシング 4.4
上海	サッカー 51.6	バスケットボール 46.7	水泳 32.3	卓球 32.0	バドミントン 24.1
北京	サッカー 55.8	卓球 43.2	バスケットボール 35.4	バドミントン 32.8	バレーボール 31.7
広州	サッカー 49.9	バドミントン 46.7	バスケットボール 37.4	卓球 36.5	水泳 31.8

サッカー	13	ボクシング	5	野球	2
水泳	10	卓球	3	フィギュアスケート	2
バドミントン	10	バレーボール	3	フィールドホッケー	1
バスケットボール	9	モータースポーツ	3		
テニス	7	クリケット	2		

図2 アジア14都市における人気スポーツに関するアンケート結果

国名	FIFA ランキング	AFC ランキング
韓国	63位	4位
中国	97位	12位
フィリピン	134位	17位
ベトナム	142位	21位
シンガポール	149位	24位
マレーシア	154位	28位
インドネシア	156位	29位
インド	158位	30位
タイ	158位	31位
香港	164位	33位

図3 アジア14都市の各国のFIFA/AFCランキング

#### 4. 考察

このような日本とアジア諸国の現状がある中で、日本人指導者がアジア進出することは、どのような影響があるのか。日本において、指導者がアジア進出することでアジア諸国における日本の指導力や日本の良さを伝えることができる。その結果、日本に対するイメージが向上し、Jリーグのアジア人気につながる可能性が増加する。このように、アジアにおける日本サッカーのブランドを「指導」を通じて、構築することができるのである。

一方、アジア諸国において、競技力の高い日本サッカーのノウハウや日本人の礼儀や集団行動などの日本式の指導を受けることで、競技力向上にプラスになる点が存在する。

#### 5. 政策提言

上記のように、競技力はトップレベルである。しかし、アジア市場における日本サッカーの確立は競技力だけでは困難である。そのために、日本サッカーの理解や日本式のサッカー指導をアジア諸国に還元することで、アジア諸国の日本サッカーに対するリスペクトにつながる。日本式のサッカーとは、組織重視のサッカースタイルであり、ヨーロッパや

アフリカのように個重視のサッカースタイルとは異なるものである。アジア諸国においてもそのような日本式のサッカーが適合しているのである。

以上のことから、これらの事柄を改善するための政策提言をする。まず一つ目として、「指導者の長期派遣。」二つ目として、「現地での指導者養成機関の設立・運営」。現在も日本サッカー協会はアジア諸国へ JFA 公認指導者を派遣しているが、いずれも半年や 1 年未満の短期間が多い。その結果、目立った結果や認知度を残すことができない。長期間にすることで、長期的な目標や課題に取り組みやすい環境が構築できる。また、現在は主に代表チームへの派遣が多いが、今後はクラブにも派遣を行う。クラブに派遣することで、選手と指導者が触れ合う機会が増えることで、指導者の存在に期待ができる。二つ目の指導者養成機関の設立・運営とは、アジア諸国における指導者に日本人指導者が指導をする「先生の先生」を行うことである。日本サッカーのノウハウや日本式の指導方法を行える指導者を増加させることで日本人指導者のブランド力とともに、アジア諸国の指導力向上につながるのである。

以上の政策提言を日本サッカー協会とアジアサッカー連盟と各国のサッカー協会が連携して政策を実行する。

## 6. まとめ

日本人指導者を国際化することにより、日本のみならずアジア諸国においても大きなメリットがある。ここで提案した内容は、サッカーのみならず他競技にも有効であるので、他競技においても実現が期待できる。日本のイメージの向上、文化の理解をスポーツ指導から構築できるのである。

### 〈参考文献〉

- ・公益財団法人日本サッカー協会「海外指導者派遣実績」(2013年7月現在)

[http://www.jfa.jp/social\\_action\\_programme/international\\_exchange/dispatch.html](http://www.jfa.jp/social_action_programme/international_exchange/dispatch.html)

- ・博報堂のグローバル生活調査レポート「アジア 14 都市の人気スポーツ」(2012/07/25)

<http://www.hakuhodo.co.jp/uploads/2012/07/20120725.pdf#search=%E3%82%A2%E3%82%B8%E3%82%A2+%E3%82%B9%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%84%E4%BA%E5%8F%A3>

- ・国際サッカー連盟「FIFA/Coca-Cola World Ranking」(2014/9/18)

<http://www.fifa.com/worldranking/index.html>